

輸入粗飼料の情勢

全酪連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

昨年2021年は9月中旬頃から、海運情勢は乱れ始めましたが、現在、北米西海岸南部航路(PSW)のロサンゼルス・ロングビーチ港におけるコンテナ本船の滞船数は10隻程度と昨年に比べると落ち着いた状況を維持しています。

懸念されている米国西海岸における、港湾労働組合(ILWU)と使役者団体(PMA)の労使交渉は締結に至っておらず、9月末に港湾労働組合(ILWU)によるスローワークがオークランド港とシアトル・タコマ港において確認されています。一部のターミナルで荷役作業のスピード低下や、出勤時間の遅延など比較的軽微なものとなっており、コンテナ本船の運航スケジュールへの大きな影響は確認されていません。今回の労使交渉は11月の米国中間選挙を控えていることや、物流の混乱から更なるインフレを避けるために米国政府も関心を示しており、早期の労使契約締結が望まれています。

カナダのバンクーバー港でのコンテナ本船の滞船数は7月後半から20隻程度で推移しており、沖合到着から着岸まで1~3週間程度の日数を要しています。一方で滞船の原因とされる荷役効率は徐々に改善が見られつつあり、鉄道輸送の待機時間も徐々に短縮されているため、滞船解消が期待されています。

ビートパルプ

【米国】

22-23年産ビートは各産地で収穫と製糖作業が開始されており、例年通り作業が進めば、来年の5月頃まで製糖作業が続く見込みです。

米国産ビートの需要については、この1か月、スポット的な引き合いが多く、産地では米国内向け及び輸出向けで追加の成約が報告されています。またメキシコやニュージーランドなどからの問い合わせもあり、相場が高値で推移している中でも需要は変わらず強い状況です。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは現在4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。3番刈は収穫期において天候が不安定であったため50%程度で降雨被害を受けていま

す。また、同州や近隣州で山火事の発生があったため、煙が空を覆い乾燥工程で通常以上に時間を要したため、過乾燥な品質が多く中級品から下級品中心の発生となりました。

産地相場は2番刈以降、アイダホ州や、モンタナ州といった近隣州で早魃状況が改善したうえ、下級品の発生が多くなったことで輸出業者及び内需においても買付に消極的であったため、下級品中心に相場は落ち着きを見せています。一方で年間を通して発生量が限られる上級品については引き続き堅調に推移しています。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは3番刈の収穫は終盤を迎え、一部の圃場で4番刈が収穫されています。

8月最終週より3番刈の収穫作業が開始されましたが、9月は不安定な天候が続き、天候の回復を待ち作業を開始した圃場もあり、9月末まで収穫に時間を費やしました。この影響で3番刈は全体の20～30%程度で雨当たり品が発生しています。

同州中部クリスマスバレーもクラマスフォールズと同様、9月に入り不安定な天候が続いたため、20～30%の雨当たりの被害が発生しています。

産地相場については、全米最大の酪農地帯であるカルフォルニア州の酪農家が高成分品を求め3番刈より買付を再開しており、2番刈と比べて横這いから若干上昇したレンジで推移しています。



(22年産クラマス産3番刈アルファルファ 9月下旬撮影)

カルフォルニア州

同州南部インペリアルバレーでは、シーズン終盤となる8番刈の収穫作業が進んでいます。産地では8月から9月にかけてメキシコ湾から季節風が入り込むため、高温多湿の影響で低成分かつ茎が細く、ブリーチが目立ち、葉付きが少ないサマーハイが中心に発生しています。産地相場については、近隣州を含む内需及び輸出向けの引き合いも継続しており堅調に推移しています。

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは2番刈の収穫を終えています。産地では多くの生産者が1番刈の収穫後に、トウモロコシや豆類といった換金性の良い穀物へ転作しています。2番刈の品質については中級品の発生が中心となっており、発生量の限られる上級品は馬糧向けとして確保されています。

スーダングラス

主産地であるカルフォルニア州インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えています。9月上旬に産地を襲った豪雨は、当時収穫中の圃場も多くあったため、大きな雨当たり被害を及ぼしています。降雨以降にベーリングされたものも、湿度の影響を受け茶葉の混入が多く、輸出向けには厳しい品質が大半となりました。一方で近隣地域の肥育生産者は引き続き安価な粗飼料を求めており、雨当たり品でも、輸出向け品と大差ない価格で成約されています。

また産地では7月より農業用水の公平分配が開始されたものの、生産者によっては割り当てが残っていることから、一部圃場ではスーダングラスへの水入れを再開しており、全体のおよそ5～10%の圃場で3番刈の生産が行なわれ、10月まで収穫は続く見込みです。



(9月の降雨後に収穫されたスーダングラス 9月下旬撮影)

クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

主産地であるカルフォルニア州インペリアルバレーでは4番刈の収穫が終了しています。9月上旬の豪雨の影響で5番刈の収穫作業に遅れが生じ、刈り遅れ品の発生が多くなっています。22年産の収穫も終盤に差し掛かっているなか、米国内需からの引き合いもさることながら、他草種と比較すると相対的に安価なクレーングラスに対し輸出業者も継続的に買付を行っており、産地相場は堅調に推移しています。

バミューダ

主産地であるカルフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在バミューダハイの3

番刈収穫作業が終盤を迎えています。バミューダヘイは米国内馬糧向けとして引き合いが強いため、3タイが多く生産されています。直近収穫されたものは、9月上旬の降雨や高温多湿な産地の気候の影響を受けており、茎はやや硬めで茶葉混じりの品質が多く発生しています。一方で粗飼料が不足する米国内需の引き合いは強く、輸出業者は集荷に苦戦しています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、22年産のストローの生産が終了しています。22年産は一部で降雨被害があったものの、概ね天候は安定していたことから、品質は例年並みとなっており、収量も十分なものとなっています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、1番刈の収穫が終了しました。22年産は生育期である7-8月において適度な降雨があったため、単収は3トン/エーカーと例年並みとなっており、収穫期は天候に恵まれ、中級品から上級品中心の発生となっています。また、22年産はクレモナ地区では珍しく、温暖な天候の恩恵を受け2番刈の収穫が行われています。

同州南部レスブリッジ地区でも1番刈の収穫を終えています。22年産の1番刈は収穫期序盤に近隣地域で起きた山火の影響で、日照不足により一部でブリーチの混入が心配されましたが、幸い短期間で煙は消滅したため、大事には至りませんでした。作況は総じて天候に恵まれたため中級品から上級品が中心です。またレスブリッジ地区においても2番刈の収穫が始まっています。序盤に降雨があったため、雨当たり品が発生しています。2番刈の収穫は10月半ばに終了する予定です。



（22年産カナダ産チモシー 左：レスブリッジ産 右：クレモナ産
10月上旬撮影）

豪州産オーツハイ

22年産豪州産オーツハイは西豪州で9月中旬から収穫が開始され、今後他の地域でも順次開始されます。

西豪州はこれまで天候に恵まれ、適度な降雨があったため、オーツハイは順調に生育しており、最適なコンディションのなか収穫を迎えています。この先、西豪州では安定した天候が見込まれており、加えて気温も25度～30度で推移する見込みとなっていることから多くの高級品の発生が期待されています。

一方で南豪州と東豪州では、不安定な天候が続いています。南豪州では断続的な降雨の影響で、10月中旬まで収穫のタイミングを待つことになると予想されています。

東豪州でも9月に入り雨の日が続いており、例年に比べ2～3週間程度、収穫スケジュールに遅れが出ています。東豪州は降雨量も多く、土壌水分も高いため、現在、圃場内に入って作業することが難しい状況です。今後も降雨は続く見込みで、雨当たり品や刈遅れとなった品質の発生が多くなることが懸念されています。今後の天候状況に注視が必要です。

輸出向けの需要は堅調に推移しています。北米産粗飼料の価格高騰で、現在21年産の出荷を続ける豪州産オーツハイに対する引き合いが強くなっています。

22年産は生産農家における燃料、機材、人件費といった生産コストが大きく上昇していることから、産地相場に反映される可能性があります。

豪州航路は引き続き不安定な船積みが続いており大きな改善は見られていません。一方で燃油価格が下落傾向にあることから、海上運賃は多少の落ち着きを見せています。船腹は余裕のない状態が続いており、例年、年末に向けて船積の混雑やスケジュールの遅れが多くなる時期のため、引き続き海運情勢には注視していく必要があります。

以上